

木更津市地域公共交通計画

事業評価シート(令和 6 年度実施分)

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月



木更津市地域公共交通計画の評価（進行管理）について

■評価について

（１）評価指標に対する評価

各事業の評価指標の進捗度については、以下の３段階を設定します。

「A」・・・目標を達成した。

「B」・・・目標達成に向けて概ね計画のとおり実施した。

「C」・・・事業の見直し等、事業内容や実施時期等の変更を要する。

（２）事業に対する評価

各事業の計画目標の評価に対しては、以下の４段階を設定します。

「A」・・・目標を達成している。

「B」・・・概ね目標の達成が見込まれる。

「C」・・・目標達成に向けて、一部課題がある。

「D」・・・このままでは目標達成が困難である。

■各事業の評価指標

本計画の達成状況を把握するため、事業ごとに次のとおり評価指標と目標値を設定します。この評価指標の進捗状況や各事業の実施状況を毎年把握することで、本計画の進行管理を行います。

【指標一覧】

事業	評価指標	目標値	実績値	事業評価
		（令和１２年度）	（令和６年度）	R6年度
【事業１】 高速バスの利便性向上	高速バスの路線毎の市内バス停の数の合計	64箇所	50箇所	C
【事業２】 木更津金田バスターミナルの機能強化	木更津金田バスターミナルの高速バス乗り入れ便数	147,000便	133,416便	C
【事業３】 バス路線等の再編	路線バスの利用者数	2,580,000人	2,347,293人	A
【事業４】 拠点における円滑な接続				B
【事業５】 新たな交通システムの導入	新たな交通システムの導入地区	5地区	1地区	B
【事業６】 車両のバリアフリー化	ノンステップバス導入率	87.9%	56.9%	B
	ユニバーサルデザインタクシー車両の導入率	41.1%	27.9%	
【事業７】 巖根駅の利便性向上	巖根駅に停車する電車の本数（平日）	現状（上り49本、下り50本）よりも増加	上り49本 下り50本	B
【事業８】 事業者の人材育成	交通事業者と連携した運転士募集に関する取組数 ※計画期間通算実施回数	40件	8件	B
【事業９】 情報発信	木更津市ホームページ閲覧件数のうち、公共交通関連ページの閲覧件数が占める割合	3.7%	3.3%	A

事業	評価指標	目標値	実績値	事業評価
		(令和12年度)	(令和6年度)	R6年度
【事業10】 多言語標記	バスの行き先表示の多言語標記率	100.0%	51.0%	B
	タクシーの翻訳機等配備率	79.9%	65.5%	
【事業11】 新たなモビリティサービスの活用	検討のための協議 ※計画期間通算実施回数	32回	8回	A
【事業12】 事業者間連携によるインセンティブ付与	事業者間連携による取組数	8件	3件	B
【事業13】 モビリティ・マネジメント	公共交通に関するイベントや説明会等の実施回数 ※計画期間通算実施回数	16回	4回	A
【事業14】 久留里線の利用促進	馬来田駅における運行本数	現状（上下17本） 維持	上り17本 下り17本	B

■推進・管理体制

木更津市地域公共交通活性化協議会において、毎年度、取組の実施状況の確認、効果検証や取組の改善案等について協議を行います。

また、計画期間における社会情勢の変化を踏まえ、見直しが必要な場合は、上位・関連計画との整合を図りつつ、計画の改訂を行っていきます。

推進・管理体制	構成員	役割
木更津市地域公共交通活性化協議会	市民、交通事業者、警察、国の交通施策担当者等	取組の実施状況の確認、効果検証や取組の改善案等について協議し、計画の進行管理を行います。また、必要に応じて、計画の改定に係る協議を行います。

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標①	高速バスの利便性向上								
事業Ⅰ	高速バスの利便性向上								
実施主体	木更津市、バス事業者、その他関係者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
まちづくりの進展に合わせた高速バスの利便性向上	検討・協議								
	実施（随時）								
	評価・検証 ※毎年実施								
新たな高速バス路線の検討	県やバス事業者と検討		検討状況を踏まえた取組の実施						
	評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【運行本数や乗降場所の増減】									
・ 運転士不足による共同運行者の撤退等により、高速バスの運行本数は減少に転じています。									
令和6年3月：東京4路線（木更津-東京、君津-東京、鴨川-東京、勝浦-東京）の減便									
令和6年6月：木更津-新宿線とMOP木更津-新宿駅西口（直通便）の統合による再編									
三井アウトレットパーク木更津-たまプラーザ（直通便）の運行終了									
令和6年7月：木更津-渋谷線が減便									
令和7年2月：木更津-羽田線、館山・君津-羽田・横浜線が減便									
令和7年4月：君津-東京線の再編（君津駅発着便を一部アウトレット発着へ振替）									
館山-新宿線（新宿なのはな号）が運休便の復便									
令和7年6月：三井アウトレットパーク木更津-成田空港線（直通便・土日のみ）の運行開始									
≪参考：令和6年度高速バスの運行本数や乗降場所≫									
路線数：19路線およびアウトレット直通バス8路線 運行本数：244,048本（前年度比▲10,827本）									
市内バス停の数の合計：50箇所（前年度比▲2箇所）									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標ⅰ	高速バスの路線毎の市内バス停の数の合計（箇所）								策定時(R3)
									55
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値
実績値	52	50							(R12)
目安値	57	58	59	60	61	62	63	64	
進捗度	C	C							64
評価指標ⅱ	木更津金田バスターミナルの高速バス乗入れ便数（便）								策定時(R3)
									136,760
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値
実績値	142,090	133,416							(R12)
目安値	139,144	140,257	141,380	142,511	143,651	144,800	145,958	147,000	
進捗度	A	C							147,000
達成の見通しと今後の方針									
・ 高速バス路線において、慢性的にバス運転士が不足する中、運転士の労働時間規制、いわゆる「2024年問題」への対応が必要となり、やむを得ず路線の廃止や減便が行われており、今後は交通事業者の運転手確保等に向けた支援および、変化する時代と新たな需要に合わせた見直しや利用促進策の検討を進めます。									
事業評価									
C	目標達成に向けて、一部課題がある								
・ 高速バス路線の廃止や運行終了があり、運行本数は減少に転じています。交通事業者とともに、利用状況に応じた運行内容を見直す等の高速バスの利便性向上に向けた検討をしていく必要があります。									

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標①	高速バスの利便性向上								
事業2	木更津金田バスターミナルの機能強化								
実施主体	木更津市、バス事業者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
木更津金田バスターミナルに乗り入れる高速・路線バスの便数増加に向けた、市とバス事業者の連携強化	市とバス事業者の協議（まちづくりの進展状況を踏まえ随時）								
	実施できる取組から随時実施								
	評価・検証 ※毎年実施								
東京・神奈川方面から東京湾アクアラインを経由して県内各地へ向かう高速バス路線について、木更津金田バスターミナルにおける乗継ぎの検討	市、関係自治体、バス事業者の協議								
	実施できる取組から随時実施								
	評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【木更津金田バスターミナルへの乗入れ路線及び乗換え可能路線の増減：なし】									
【木更津金田バスターミナルへの乗入れ便数の増減】									
令和6年3月：東京4路線（木更津-東京、君津-東京、鴨川-東京、勝浦-東京）乗入れ便数減									
令和6年4月：木更津-川崎線が乗入れ便数増									
：木更津-新宿線が乗入れ便数減									
令和7年2月：木更津-羽田空港線が乗入れ便数減									
【木更津金田バスターミナルに乗入れをしている高速バス：12路線】*運休									
木更津-東京線、君津-東京線、鴨川-東京線、安房小湊・御宿・勝浦-東京線、木更津-品川線、木更津-新宿線、木更津-羽田空港線、木更津-川崎線、木更津-横浜線、木更津-成田空港線*、鴨川-渋谷線*、君津BT-USJ線									
【木更津金田バスターミナルで乗換え可能な高速バス：2路線】鴨川-東京線、鴨川-渋谷線*運休									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標 i	高速バスの路線毎の市内バス停の数の合計（箇所） ※再掲								策定時(R3)
									55
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値 (R12)
実績値	52	50							
目安値	57	58	59	60	61	62	63	64	64
進捗度	C	C							
評価指標 ii	木更津金田バスターミナルの高速バス乗入れ便数（便） ※再掲								策定時(R3)
									136,760
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値 (R12)
実績値	142,090	133,416							
目安値	139,144	140,257	141,380	142,511	143,651	144,800	145,958	147,000	147,000
進捗度	A	C							
達成の見通しと今後の方針									
・高速バス乗入れ便数については目安値を達成することができましたが、バス運転士不足や運転士の労働時間規制、いわゆる「2024年問題」への対応による路線の廃止や減便が行われています。									
・今後も交通事業者とともに、利用者のニーズを把握し、木更津金田バスターミナルでの乗り継ぎの検討を行い、利便性の向上を目指します。									
事業評価									
C	目標達成に向けて、一部課題がある								
・高速バス乗入れ便数は減少に転じています。引き続き、交通事業者とともに、利用者のニーズに対応した高速バスネットワーク機能の強化に向けた検討をしていく必要があります。									

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標②	路線バスの再編等								
事業3	バス路線等の再編								
実施主体	木更津市、バス事業者、その他関係者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
拠点ネットワーク型の集約型都市構造の形成を目指したバス路線等の再編	検討	できるところから再編実施（随時）							
	評価・検証 ※毎年実施								
まちづくりの進展や需要の変化を踏まえたバス路線等の見直し	バス路線の見直し（随時見直し）								
	評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【まちづくりの進展や需要の変化を踏まえたバス路線等の見直し】 令和6年4月：運転業務に係る労働時間の規制強化に伴い、市内10路線で減便やダイヤ改正が行われました。（全体運行本数の4.7%減） ≪減便・ダイヤ改正の主な内容≫ ・早朝の始発便の繰り下げおよび、夜間の最終便時刻の繰り上げ ・年末年始および土休日ダイヤの設定 【路線バスネットワークの再構築に関する協議・意見交換】 ・令和4年度に実証運行を行った市街地循環バスの本格運行が収支面から困難であることから、既存路線の一部延伸によるバス路線網の再構築に向けた検討をバス事業者と行いました。 （参考：運転士の労働時間規制、いわゆる「2024年問題」について） 慢性的にバス運転士が不足する中、2024年4月から自動車運転者の労働時間等の労働条件の向上を図るため、拘束時間、休息时间等の基準の規制強化が適用されています。 このことにより、各バス事業者においては、これまでどおりのダイヤを維持することが困難であることから、減便やダイヤの見直しが行われています。									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標 i	路線バスの利用者数（人）								策定時(R3) 1,936,008
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値 (R12)
実績値	2,246,716	2,347,293							2,580,000
目安値	2,184,800	2,241,200	2,297,600	2,354,000	2,410,400	2,466,800	2,523,200	2,580,000	
進捗度	A	A							
達成の見通しと今後の方針									
・路線バス路線において、慢性的にバス運転士が不足する中、運転士の労働時間規制、いわゆる「2024年問題」への対応が必要となり、やむを得ず路線の減便が行われていることから、引き続き交通事業者の運転手確保等に向けた支援を強化します。 ・持続可能なバス路線網の構築を図るため、バス事業者とともに市街地循環バスの導入等に向けた検討を進めます。									
事業評価									
A	目標を達成している								
・路線バス利用者数は令和4年度から増加し続けています。引き続き、交通事業者とともに、「2024年問題」に起因する減便・ダイヤ改正について、改正後の利用状況等を注視し、バス路線網の維持に取り組む必要があります。									

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標②	路線バスの再編等							
事業4	拠点における円滑な接続							
実施主体	バス事業者、その他関係者							
取組内容・スケジュール								
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
乗り換え及び乗り継ぎに配慮したダイヤ編成	ダイヤ改正の都度、ダイヤを見直す 評価・検証 ※毎年実施							
乗継割引の導入・待合環境の向上	検討 実施（必要に応じて見直し） 評価・検証 ※毎年実施							
取組状況								
【乗り換え及び乗り継ぎに配慮したダイヤ編成】 - 市は交通事業者に対して円滑な乗換えダイヤの編成を検討するよう促し、交通事業者は提供された情報を踏まえて検討を行っています。 (参考) 令和6年3月18日のダイヤ改正では、本市内の各駅へのバスとの接続については影響がありませんでした。 【乗継割引の導入・待合環境の向上】 - 市街地循環バスの本格運行の検討に伴い、路線バスの乗継割引の実施に向けた検討をバス事業者と行いました。 今後は拠点でのバス同士の乗継制度の導入および、商業施設などの拠点における待合スペースの確保についても検討を行います。 - 令和6年7月にJR木更津駅東口にコワーキングが可能なカフェ・交流スペースを備えた「街なか交流施設」が整備され、バスや電車の待合環境が向上しました。								
目標値に対する実績値の進捗評価								
評価指標：	路線バスの利用者数（人）※再掲							策定時(R3) 1,936,008
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績値	2,246,716	2,347,293						
目安値	2,184,800	2,241,200	2,297,600	2,354,000	2,410,400	2,466,800	2,523,200	2,580,000
進捗度	A	A						
達成の見通しと今後の方針								
- バス事業者は引き続きJRの時刻改正を踏まえた円滑な乗換えダイヤの編成に取り組めます。 - バス事業者は集約拠点において乗り継ぎが生じるような再編を行う場合は、利用者の運賃負担が増えないよう乗継割引制度の導入に取り組めます。 - 拠点ネットワーク型のバス路線の構築のため、バス事業者とともに市街地循環バスの導入等に向けた検討を進めます。								
事業評価								
B	概ね目標の達成が見込まれる							
路線バスの利用を促す観点から、バス事業者は需要の変化に対応した路線バス網の再編や、乗継割引制度の導入、待合環境の向上について検討を進める必要があります。								

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標③	新たな交通システムの導入								
事業5	新たな交通システムの導入								
実施主体	木更津市、市民、タクシー事業者、バス事業者、その他関係者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
交通不便地域における 新たな交通システムの導入	本格運行（導入済みの地区）								
	説明会開催 (順次実施)	導入検討	実証運行	本格運行					
			導入検討	実証運行	本格運行				
				導入検討	実証運行	本格運行			
	評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【交通不便地域における新たな交通システムの導入】 「新たな交通システム導入の基本的な考え方」に基づき、まちづくり協議会等の地域主体による新たな交通システムの導入を促進し、市は支援を行います。 ○令和6年度のまちづくり協議会等との協議状況 - 東清川地区まちづくり協議会（説明会①10/29(火) 参加者24名、説明会②3/30(日) 参加者17名） 新たな交通システムについて導入手引書に基づき説明を行い、まちづくり協議会からは、高齢者の移動手段の確保について検討を進めたいとの意向がありました。 - 木更津市社会福祉協議会(意見交換 2/3(月)) 新たな交通システムおよび国の無償運送ガイドラインについて意見交換を行いました。 - 千葉県タクシー協会南房支部(意見交換 8/13(火)) まちづくり協議会等の地域主体が新たな交通システムの運行委託を行うことについて、意見交換を行いました。 【参考】令和5年度のまちづくり協議会等との協議状況 - 岩根東地区まちづくり協議会への説明会 令和5年11月10日（金） - 木更津市社会福祉協議会との意見交換 令和5年12月7日（木） ○富来田地区自家用有償旅客運送の状況 - 地域公共交通活性化協議会にて、輸送および収支の状況を報告し、状況改善に向けた意見交換を行いました。									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標 i	新たな交通システムの導入地区(地区)								策定時(R3)
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	I地区
実績値	1	1							目標値(R12)
目安値	1	2	2	3	3	4	4	5	5地区
進捗度	B	B							
達成の見通しと今後の方針									
市は、今後も交通不便地域への導入に向けた検討を進めるとともに、富来田地区で運行されている自家用有償旅客運送について、需要や運行上の問題点などを確認し、関係者で連携して解決を図りながら持続可能な運行を目指します。									
事業評価									
B	概ね目標の達成が見込まれる								
新たな交通システムの導入がI地区にとどまっており、導入地区増加に向け課題解決を図る必要があります。									

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標④	利用しやすい環境の整備								
事業6	車両のバリアフリー化								
実施主体	バス事業者、タクシー事業者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
バス車両のバリアフリー化の推進	車両更新時に、ノンステップバスを導入 評価・検証 ※毎年実施								
タクシー車両のバリアフリー化の推進	車両更新時に、ユニバーサルデザインタクシーを導入 評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【バス車両のバリアフリー化の推進】 ・木更津市内に本社または営業所があるバス会社：2社 ・ノンステップバスの台数：33台 ・バス台数の合計：58台 ・導入率：56.89% 【タクシー車両のバリアフリー化の推進】 ・木更津市内に本社または営業所があるタクシー会社：6社 ・ユニバーサルデザイン車両数：63台 ・タクシー台数の合計：226台 ・導入率：27.87%									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標 i	ノンステップバス導入率(%)								策定時(R3) 56.5%
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値(R12)
実績値	56.9	56.9							87.9%
目安値	67.5	70.6	72.2	77.4	79.6	82.7	84.8	87.9	
進捗度	B	C							
評価指標 ii	ユニバーサルデザインタクシー導入率(%)								策定時(R3) 24.7%
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値(R12)
実績値	26.5	27.9							41.1%
目安値	28.3	30.1	32	33.8	35.6	37.4	39.2	41.1	
進捗度	B	B							
達成の見通しと今後の方針									
・バスが運行する地域によっては、低床バスだと走行中に床を道路に擦ってしまう場合があるため、導入率を100%にすることは困難ですが、可能な限り導入を進め、バリアフリー化を図るよう、バス事業者およびタクシー事業者に促します。									
事業評価									
B	概ね目標の達成が見込まれる								

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標④	利用しやすい環境の整備								
事業7	巖根駅の利便性向上								
実施主体	木更津市、鉄道事業者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
総武線快速電車の停車等についての協議・要望	総武線快速電車の停車について協議 (随時実施) 普通電車の増便要望 評価・検証 ※毎年実施								
東側改札口の開設	整備 評価・検証								
岩根人道跨線橋エレベーター設置	EV設置 評価・検証								
取組状況									
【総武線快速電車の停車等についての協議・要望】 - 千葉県JR線複線化等促進期成同盟の要望活動を通じて、巖根駅への快速停車対応のためホーム延伸について駅施設整備を求めました。 (参考：2025年3月ダイヤ改正) 総武線快速：夕夜間帯の下り列車の運転本数の変更 京葉線： - 夜間帯に西船橋と海浜幕張間で増発 - 夕夜間帯に一部の各駅停車を快速列車に変更 【東側改札口の開設】 - 半導体不足の影響から改札機器の調達時期が遅れ、鉄道事業者による着工が令和6年3月となり、供用開始は令和6年12月となりました。 【岩根人道跨線橋エレベーター設置】 - 令和4年度着工、令和6年1月に供用を開始しました。									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標：	巖根駅に停車する電車の本数（平日）（本）							策定時(R3) 上り49本、下り50本	
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
実績値	上り	49	49						目標値(R12) 現状よりも増加
	下り	50	50						
達成の見通しと今後の方針									
引き続き、千葉県JR線複線化等促進期成同盟の活動を通じて総武線快速電車の停車等についての協議を進める他、京葉線直通列車の復元を要望します。									
事業評価									
B	概ね目標の達成が見込まれる								
東口改札の新設に伴い、令和6年にJR巖根駅の一体的なバリアフリー化が図られました。									

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標④	利用しやすい環境の整備							
事業8	事業者の人材育成							
実施主体	木更津市、交通事業者、その他関係者							
取組内容・スケジュール								
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
ホスピタリティの推進	取組の継続 評価・検証 ※毎年実施							
運転士の募集支援	周知PR等の支援の実施(随時) 評価・検証 ※毎年実施							
無人自動運転に関する情報収集・検討	調査・検討 評価・検証 ※毎年実施							
取組状況								
【ホスピタリティの推進】 - 交通事業者は、運転士の接遇(接客マナー)の向上や、介護を必要とする方への対応などのホスピタリティを推進するため、社内研修を毎年実施しています。 【運転士の募集支援】 - 千葉県および木更津市はホームページ等で運転士募集に関する情報掲載を行い、運転士募集に関する情報提供を行いました。 - 令和6年7月に千葉県が開催した「ちば移住・しごと相談会」に市内事業者が参加しました。 - 令和6年12月に木更津市とハローワーク木更津が共催で「運転のお仕事説明面接会inイオンモール木更津」を開催しました。 - 令和7年2月に木更津市が開催した「木更津市合同就職説明会」に市内事業者が参加しました。 - 令和7年2月、3月に千葉県が開催した「千葉県バス会社合同就職説明会」に市内事業者が参加しました。 【無人自動運転に関する情報収集・検討】 - 市は、国土交通省および事業者主催の勉強会への参加や、県内の先進自治体の視察等の情報収集を行いました。								
目標値に対する実績値の進捗評価								
評価指標 i	交通事業者と連携した運転士募集に関する取組数(件) ※計画期間通算実施回数							策定時(R3) 0件
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績値	2	8						
目安値	5	10	15	20	25	30	35	40
進捗度	B	B						
達成の見通しと今後の方針								
- 各交通事業者は継続的な社内研修等の実施により、運転手等の接遇能力の向上を図り、利用者の満足度の目標達成を目指します。 - 市は、今後も関係機関と連携して合同説明会を開催し、運転手の確保に努め、人材不足を解消を目指します。また、交通事業者においても自動運転技術の活用を検討を進めます。								
事業評価								
B	概ね目標の達成が見込まれる							
各交通事業者は深刻な運転士不足の解消のため、募集チラシの作成や新聞折り込みによる配付、そして積極的な採用面接会を実施しています。市は引き続き、担い手確保の支援を行います。								

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標④	利用しやすい環境の整備							
事業9	情報発信							
実施主体	木更津市、交通事業者							
取組内容・スケジュール								
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
ホームページ等を活用した わかりやすい情報の提供	取組の継続(随時更新) 評価・検証 ※毎年実施							
取組状況								
【ホームページ等を活用したわかりやすい情報の提供】 《市ホームページ》 - 市ホームページ「高速バス特設ページ」に最新情報を掲載し、市公式LINE等のSNSを通じて公共交通に関する情報発信を行いました。 - 交通事業者が実施している高齢者への助成制度について、市ホームページ、市広報紙へ掲載しました。 - 令和6年度「木更津市公共交通に関するホームページ」総アクセス件数：234,912件（+62,410件） 《其他媒体》 - 地域のフリーマガジンに高速バスの路線図・時刻表を掲載。 - 市の広報紙（11月号）に路線バスの利用を促す記事を掲載。								
目標値に対する実績値の進捗評価								
評価指標：	木更津市ホームページ閲覧件数のうち、公共交通関連ページの閲覧件数が占める割合（％）							策定時(R3)
								1.6%
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績値	4.3	3.3						
目安値	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7
進捗度	A	B						
達成の見通しと今後の方針								
今後も市ホームページ等を活用して、公共交通の認知度向上に向けて情報発信を行う必要があります。								
事業評価								
B	概ね目標の達成が見込まれる							

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標④	利用しやすい環境の整備								
事業10	多言語標記								
実施主体	バス事業者、タクシー事業者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
案内看板等の多言語標記化の推進	取組の継続(随時更新)								
	評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【案内看板等の多言語標記化の推進】 (1)バスの行き先表示の多言語標記率 「バス車両の前後や側面に掲げた行き先表示が多言語標記されたバス路線数」の占める割合 ・路線バス・高速バスの路線数：49路線(前年度比▲4) ・うち多言語標記等導入路線数：25路線(前年度比▲2) ・導入率：51.02% (2)タクシーの翻訳機等配備率 翻訳機等が配備されたタクシー車両数の占める割合 ・タクシー台数の合計：226台(前年度比+3) ・うち多言語標記等導入車両数：148台(前年度比+17) ・導入率：65.48% 【外国人にとってわかりやすい多言語標記化等の例】 ≪多言語標記≫ ・行き先表示、車内電光掲示板の多言語化 ・言語切り替え可能のタブレット端末の搭載 ≪音声案内≫ ・運転手の翻訳アプリ携行 ・多言語による車内アナウンス ≪パンフレット≫ ・車内シートベルト着用のお願いや緊急時の対応方法等の記載									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標 i	バスの行き先表示の多言語標記率 (%)								策定時(R3)
									50.9%
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値(R12)
実績値	50.9	51							
目安値	61.9	67.4	72.9	78.4	83.9	89.4	94.9	100	100%
進捗度	B	B							
評価指標 ii	タクシーの翻訳機等配備率 (%)								策定時(R3)
									57.5%
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値(R12)
実績値	58.7	65.5							
目安値	62.5	65	67.5	70	72.5	75	77.5	79.9	79.9%
進捗度	B	A							
達成の見通しと今後の方針									
・各交通事業者は、今後も外国人居住者や外国人観光客に対しても、わかりやすく使いやすい公共交通機関となるよう多言語標記化やピクトグラム標記表示の対応を行う必要があります。									
事業評価									
B	概ね目標の達成が見込まれる								

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標④	利用しやすい環境の整備								
事業Ⅱ	新たなモビリティサービスの活用								
実施主体	木更津市、交通事業者、その他関係者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
新たなモビリティサービスの活用	調査・研究、調整・協議								
	実施できる取組を順次展開								
	評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【新たなモビリティサービスの活用】 ・AIオンデマンド交通等の新たなモビリティサービスについて、木更津市と交通事業者で情報交換を令和6年度は4回行いました。 ・グリーンスローモビリティ車両の活用事例について、木更津市と木更津市社会福祉協議会で情報交換を行いました。 ・自動運転技術に関する先進自治体の現地視察を行い、自動運転バスの実施方法や課題点等について説明を受け、さらに意見交換を行いました。 ・自動運転バスの導入に関する他地域の事例について、事業者から情報提供を受けました。 ≪参考：横芝光町 自動運転モビリティ事業≫ ・既存交通網と連携した新たな交通網の形成のため、将来的な自動運転レベル4の実現を目指し、現在は一部手動運転介入のレベル2運行の実証走行を実施している。 (1)実施主体：横芝光町 (2)期間：令和6年2月から通年で実証走行中 (3)運行方法：定時定路線 1日10便程度 (4)運行経路：横芝駅～商業施設～町立病院(約5.5km) (5)車両：自動運転レベル4対応のEV車両(実証運行は最大16名乗)									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標：	検討のための協議回数（回） ※計画期間通算実施回数								策定時(R3)
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値(R12)
実績値	4	8							
目安値	4	8	12	16	20	24	28	32	32
進捗度	A	A							
達成の見通しと今後の方針									
・「2024年問題」に起因する運転士不足の解消のため、交通事業者と共にAIオンデマンド交通等の新たな交通モビリティサービスの活用について検討し、公共交通の維持・確保を目指します。 ・市および交通事業者は引き続き、自動運転技術等の新たなモビリティサービスに関する情報収集を行います。									
事業評価									
A	目標を達成している								
・市および交通事業者は公共交通の担い手の確保や、交通空白地の解消に向けて関係者と共に情報収集および検討を進める必要があります。									

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標⑤	公共交通の維持に向けた利用促進							
事業12	事業者間連携によるインセンティブ付与							
実施主体	バス事業者、その他関係者（施設関係者）							
取組内容・スケジュール								
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
運賃割引券等の導入	取組の継続（取組改善や新規取組を随時検討・実施） 評価・検証 ※毎年実施							
取組状況								
【運賃割引券等の導入】 ・イオンモール木更津で1,000円以上の買い物をした者を対象に、イオンモール木更津発のバスの100円割引券を発行しています。 ・「木更津－鴨川線」では、イオンモール木更津～鴨川間の往復割引乗車券を販売し、両社が広報活動において連携・協力しています。 （参考：往復料金） イオンモール木更津～鴨川間：通常3,160円 ⇒ 2,200円 ※3日間有効 ・高速バス（新宿線・東京線）の乗車券と三井アウトレットパーク木更津の買い物券のセット販売を行っています。								
目標値に対する実績値の進捗評価								
評価指標：	事業者間連携による取組数（件）							策定時(R3)
								4件
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績値	3	3						
目安値	4	5	5	6	6	7	7	8
進捗度	B	B						
達成の見通しと今後の方針								
・バス事業者は市内の大型商業施設と連携し、一定額の買い物をした場合に運賃割引を行う割引制度の導入を検討するなど、更なる公共交通利用者獲得に向けたインセンティブの付与を促します。								
事業評価								
B	概ね目標の達成が見込まれる							

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標⑤	公共交通の維持に向けた利用促進							
事業13	モビリティ・マネジメント							
実施主体	木更津市、市民、バス事業者、その他関係者							
取組内容・スケジュール								
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
公共交通の乗り方教室などの実施	本格運行（導入済みの地区）							
	導入検討		新規取組の実施					
	評価・検証 ※毎年実施							
エコ通勤の推進	市職員のエコ通勤を促す		市全域を対象としたエコ通勤の展開					
	評価・検証 ※毎年実施							
取組状況								
【公共交通の乗り方教室などの実施】 ・木更津市主催イベント（防災フェスティバル）で、日東交通による「路線バス乗り方教室」を実施しました。 ・久留里線活性化協議会による「久留里線乗り方教室」を実施しました。 【エコ通勤の推進】 ・市職員を対象に公共交通や自転車・徒歩による通勤を促す「エコ通勤チャレンジ」を令和6年度は3回実施しました。 ・時期：①令和6年5月20日～5月31日 ②令和6年12月2日～12月27日 ③令和7年2月3日～7年2月28日 ・結果：エコ通勤に取り組んだ(既に取組んでいる)人数/アンケート回答者数 ①259人/831人 ②304人/823人 ③138人/350人								
目標値に対する実績値の進捗評価								
評価指標：	公共交通に関するイベントや説明会等の実施回数（回） ※計画期間通算実施回数							策定時(R3) 3回 (3か年通算)
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実績値	2	4						
目安値	2	4	6	8	10	12	14	16
進捗度	A	A						
達成の見通しと今後の方針								
・路線バスの乗り方教室は、対象者の拡大、実施方法の工夫などを行い、継続的に実施する必要があります。 ・市は木更津市職員に対して、公共交通の維持、地球環境の保全、健康増進の観点からエコ通勤への協力を求め、市全域を対象としたエコ通勤の展開について検討する必要があります。								
事業評価								
A	目標を達成している							

木更津市地域公共交通計画 事業評価シート (令和 6 年度実施分)

計画目標⑤	公共交通の維持に向けた利用促進								
事業14	久留里線の利用促進								
実施主体	木更津市、鉄道事業者、その他関係者								
取組内容・スケジュール									
取組内容	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
J R 久留里線活性化協議会 による事業の実施	J R 久留里線活性化協議会等による利用促進事業の実施 評価・検証 ※毎年実施								
取組状況									
【J R 久留里線活性化協議会による事業の実施】 (1)久留里線乗り方教室の実施 - 沿線地域在住の小学生及び保護者を対象に、J R 久留里線に実際に乗車する乗り方教室を実施 - 実施日：令和6年12月15日（日） - 参加者 計13組（26名） (2)久留里線活性化協議会Xプレゼントキャンペーンの実施 - 実施期間：令和6年6月12日（水）～7月8日（月） - 協議会のX公式アカウントをフォローし、投稿キャンペーンポストをリポストした方から抽選で15名に、久留里沿線3市の「イチオシ特産品」を贈呈。 - キャンペーン参加者：74名 (3)久留里線×沿線イベント等とのコラボレーションの実施 - 久留里ナイト酒ミュージアムええもん夜いちにおいて当日の久留里線利用者に対し、特典を付与し、久留里線の利用促進を図った。 （特典内容：久留里線の乗車証明書を持参し、酒ミュージアムで「地酒3種試飲」を購入した方に、おちょこ1杯の大吟醸をプレゼント） - 特典利用件数：164件 - 実施日：令和6年9月14日（土） ≪参考：久留里線活性化協議会と地域イベント・各種団体等との連携・コラボレーション≫ - 久留里線沿線地域への来訪促進のため、久留里線沿線で開催されるイベント等（地域行事）への協力・共催や観光施設等と連携した取組を実施します。 - 連携する団体・取組例：久留里ええもん市、久留里酒ミュージアム									
目標値に対する実績値の進捗評価									
評価指標 i	馬来田駅における運行本数（本）								策定時(R3) 上り17本, 下り17本
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値(R12)
実績値	上り	17	17						現状維持
	下り	17	17						
達成の見通しと今後の方針									
・引き続き、JR久留里活性化協議会の活動を通じて久留里線の利用促進に向けた事業に取り組みます。									
事業評価									
B	概ね目標の達成が見込まれる								